

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11083	3	前期	必修	1	30
授業科目名 (英文)	基礎看護援助方法V (Basic for Evidence Based Practice V)				
担当教員名	○小澤知子／原田竜三／松尾まき／富岡晶子／横山美樹 大金ひろみ／蓮井貴子／山之井麻衣／山崎千寿子 末永由理／中山純果／嶋澤奈津子				
授業の概要及び到達目標					
<p>授業概要</p> <p>本科目では、これまでの基礎看護援助方法Ⅰ～Ⅳの学習を統合し、健康が障害された対象の個別な状態に応じた身体・生活の観察およびアセスメントと、これにもとづく対象の日常生活援助技術の適切な選択、実施、評価が実践できる力の獲得をめざす。さらに、情報伝達のうち緊急時における適切なコミュニケーションを理解する。これらについては、客観的臨床能力試験（以下、OSCE：Objective Structured Clinical Examination）を実施し、引き続き開講される各論実習前の自己課題の明確化を行う。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康が障害された対象の個別な状態に応じた身体・生活の観察およびアセスメントができる。</li> <li>2. アセスメントにもとづく対象の日常生活援助技術の適切な選択、実施、評価が実践できる。</li> <li>3. 実践において対象者及び専門職に対し、口頭で適切に情報を伝達できる。</li> <li>4. 各論実習前の自己の課題を明確にできる。</li> </ol>					
準備学習等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護援助方法Ⅰ～Ⅳ、基礎援助実習Ⅰ・Ⅱ、各看護援助論の学びを復習しておくこと。</li> <li>・事例のケアに必要な看護技術についてはe-Learning（ナーシングスキル）を活用すること。</li> <li>・準備学習に必要な時間は各回2時間である。</li> </ul>					
成績評価の方法	記述試験 20% 客観的臨床能力試験（OSCE） 50% レポート 30%				
テキスト	指定なし				

<p>参考図書</p>	<p>※「はじめてのフィジカルアセスメント」(横山美樹:メヂカルフレンド社)          ※「臨床事例で学ぶ急性期看護のアセスメント」(小澤知子:メディカ出版)          ※「プリンシプル在宅看護論」(原礼子:医歯薬出版)          ※「新版 在宅看護論」(木下由美子:医歯薬出版)          ※「在宅看護論 第5版」(河原加代子:医学書院)          ※「在宅看護論 改訂第2版」(石垣和子ほか:南江堂)          ほか、必要時に授業で紹介する。</p>
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本科目は、基礎看護援助方法ⅠからⅣ、および基礎看護援助実習Ⅰ・Ⅱの学びを積み上げ、3年後期からの実習科目へつなげる学習である。</li> <li>・ 客観的臨床能力試験では、模擬患者の協力を得て実施する。</li> <li>・ 演習の少人数グループおよび日程などは別途指示する。</li> <li>・ 出席については20分以上の遅刻を欠席とみなす。</li> <li>・ 課題学習の方法、演習の取り組みについては第1回目の授業で説明する。</li> <li>・ 客観的臨床能力試験については、模擬患者および教員から授業内に口頭でフィードバックを行う</li> <li>・ &lt;レポート提出&gt;          テーマ 「自分が目指す対象にとってよりよい看護とその理由」を考える。          本文 A4 (40×40) 1000字から1600字以内          評価の視点、提出場所・期限については第1回目授業で説明する。</li> <li>・ レポートは、教員のコメントを記載し、後日返却する。</li> <li>・ 本科目の相談等についてはオフィスアワーを利用すること。(履修案内参照)</li> </ul>
<p>授 業 計 画</p>	
<p>第1-2回: 科目の目的と学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション</li> <li>・ 生活編の状況設定シナリオとOSCEの課題提示</li> <li>・ 治療編の状況設定シナリオとOSCEの課題提示</li> <li>・ 事前学習課題の提示 (講義/小澤・原田・大金)</li> </ul> <p>第3-4回: 口頭での情報伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象への情報伝達、専門職同士での情報伝達</li> <li>・ 平常時における口頭での情報伝達</li> <li>・ 緊急時の情報伝達のスキル: SBAR (演習/末永・中山・嶋澤)</li> </ul> <p>第5-6回: アセスメントにもとづく対象への援助①(生活編・治療編)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況設定にある対象への看護実践の教員デモンストレーション</li> <li>・ 状況設定にある対象への看護実践の練習 (演習/大金・蓮井・山崎・山之井・小澤・原田・松尾・横山・富岡)</li> </ul> <p>第7-8回: 対象の理解および基礎知識の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報伝達の基礎知識に関する記述試験</li> <li>・ 状況設定(生活編、治療編)にある対象の理解に関する基礎知識の記述試験</li> <li>・ 記述試験問題の解答例の解説 (記述試験・講義/末永・原田・大金・小澤・山崎)</li> </ul>	

第 9-10 回：アセスメントにもとづく対象への援助②

- ・状況設定にある対象への看護実践の練習
- ・演習における学生同士のピアレビュー

(演習/大金・蓮井・山崎・山之井・小澤・原田・松尾・横山・富岡)

第 11-13 回：アセスメントにもとづく対象への援助③

- ・OSCE のブリーフィング
- ・模擬患者活用による OSCE の実施
- ・模擬患者からの全体フィードバック
- ・OSCE のグループデブリーフィング及び発表とディズカッション

(実技試験/小澤・原田・松尾・大金・蓮井・山崎・山之井・富岡・横山・末永)

第 14-15 回：自己課題の明確化とまとめ

- ・教員からの全体フィードバック
- ・ふりかえりシート、模擬患者からの学びシートによる振り返り

(演習/大金・小澤)